

2025 年度 自己点検・評価報告書

理工学研究科評価分科会

2026 年 2 月（最終報告）

基準5 学生の受け入れ

1. 学生の受け入れのための広報活動全般について、適切に実施しているか。

- ・オープンキャンパスにおける取組み
- ・授業体験や姉妹校との連携事業などの実施状況

【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

<課題>

- ・学生定員充足率の改善

<今年度の方針・改善計画>

- ・大学院進学推進セミナーの実施（12月予定、情報システム工学専攻）

情報システム工学科(1-4年生)の希望者を対象に、博士前期課程の学習内容や生活状況について知ってもらい、大学院進学を推進する。就職か進学か迷っている、大学院で何を学ぶかわからない、就職する予定だけど話だけでも聞きたい、というような学生も対象とする。現役の大学院生からの話、キャリアにおける大学院進学のメリットを伝え、院生を中心とするグループ別のQ&Aセッションを持つ。

【2】今年度の取組みに関する点検・評価結果

昨年度の課題である定員充足率の改善に向け、情報システム工学専攻を中心に現役院生が登壇する進学推進セミナーを12月に実施し、学部生の意欲喚起を図る計画である。一方で、キャリア支援が学部生向けに偏り、院生特有の専門性や理系に特化した助言が不足している点が新たな課題として浮き彫りとなった。

また、研究環境面では一部の電子ジャーナルへのアクセス制限や、理工学部棟におけるオンライン会議用個室・自習スペースの不足が、院生・教員双方の研究活動の支障となっている。さらに、学会参加時の自己負担による経済的格差や、教員の事務多忙による指導時間の不足も、教育の質を左右する重要な点検事項として確認された。

【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画結果

<短期計画（アセスメント実施後1~2年の期間で実現可能な改善策）>

情報システム工学専攻を中心に、12月に「大学院進学推進セミナー」を実施する。学部1~4年生を対象に、現役院生による学習・生活状況の紹介や、キャリアにおける進学のメリットを伝えるQ&Aセッションを設け、進学意欲の喚起を図る。

<中長期計画（アセスメント実施後3~5年の期間で取り組む改善計画）>

専攻ごとのコロキウムや「SOKA-SPRING」等の行事を、学部の垣根を越えて広く公開する。また、修士2年生から後輩へアドバイスを送る機会を定例化し、専門分野の人脈や就職実績を可視化することで、中長期的な進学者数の安定確保を目指す。

2. 合格者に対する入学前教育等を適切に実施しているか。また入学後の学生に必要な支援（リメディアル教育・初年次教育等）を実施しているか。

【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

大学院であるため、該当しない。

【2】今年度の取組みに関する点検・評価結果

【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画結果

<短期計画（アセスメント実施後1～2年の期間で実現可能な改善策）>

<中長期計画（アセスメント実施後3～5年の期間で取り組む改善計画）>

学生の意見聴取

主として以下の観点を参考に、今年度の点検・評価および今後の方針を記入してください。

- 履修、授業、LOs に関すること
 - ・ 全学の教育目標や3つのポリシーを認識していたか
 - ・ 履修科目を決める際に、その科目のラーニング・アウトカムズを意識したか
 - ・ 自身の学びを自己点検しているか
(履修科目のラーニング・アウトカムズの修得や、授業アンケートの自己評価について)
 - ・ 今後、DPに掲げる能力を身に付けることが期待できるか
- 昨年度の学生からの意見聴取を受けて取り組んだ事項について
 - ・ 学生からの意見を受けて検討および実施した取り組み等のフィードバック
- 学生生活全般に関することや機構として意見交換した事項

【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

<昨年度の課題>

- ・ キャリア科目の整備と多様なキャリアパスの提示
- ・ 全学の教育目標や3ポリシーについて学生が認識を深められるような工夫
- ・ 学生が履修科目のLOを意識できるような工夫
- ・ 各種ハラスメントへの対策

<今年度の方針・計画>

・ ハラスメント対策：入学時のガイダンスにて、各種ハラスメントに関する基本知識の説明、ハラスメントに遭った際にすべき行動、キャンパスハラスメント対策室の紹介、教員－学生の関係だけでなく、学生同士のハラスメントにも気をつけるよう注意した。

【2】今年度の取組みに関する点検・評価

・ キャリア支援の乖離： 現行の支援は学部生向けが中心であり、大学院生が求める理系特化のアドバースや専門性を問う面接対策が不足している。

- ・研究・学習環境の不備：一部電子ジャーナルの閲覧制限が研究の支障となっているほか、オンライン会議用の個室や学部生の自習スペースが不足している。
- ・教育課程の課題：研究室配属前の基礎知識の格差や、博士課程における授業履修形式の柔軟性欠如が指摘された。
- ・経済的・精神的負担：学会参加時の自己負担による格差や、ハラスメント相談窓口の機密性への不安が示された。

【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画

<短期計画（アセスメント実施後1～2年の期間で実現可能な改善策）>

- ・キャリア支援の強化：キャリアセンターと情報を共有し、卒業生や修士2年生からアドバイスを受ける機会（授業やコロキウム等）を拡充する。
- ・施設環境の暫定対応：フレイザー図書館へのホワイトボードや遮音性個室ブースの設置を検討し、スペース不足を解消する。
- ・教育支援の導入：生命科学分野等でのブラッシュアップ授業設置や、高価な専門書の再利用システムの導入を検討する。
- ・相談体制の周知：機密保持の徹底を再確認し、状況に応じた適切な相談窓口（事務局、アドバイザー教員等）を学生に周知する。

<中長期計画（アセスメント実施後3～5年の期間で取り組む改善計画）>

- ・研究インフラの拡充：電子ジャーナルの契約範囲を拡大し、必要な論文を自由に閲覧できる体制を構築する。
- ・組織・制度の見直し：教員の事務業務を見直して学生との対話時間を確保するとともに、博士課程の授業形式の集中化を検討する。
- ・公的補助の整備：経済状況によらず研究業績を積めるよう、国内外の学会発表における参加費・交通費の補助規定を改善する。
- ・組織連携の定着：院生協議会等を通じた学生と大学側の定期的な意見交換を定例化し、改善のサイクルを確立する。